日本共産党の躍進で「アベノ暴走」にNO!!を

5.24
全国遊説

宝の県議席必ず守ります

中川ゆう子 県議候補（現岐阜市議） 熱く訴え

ご紹介いただきました中川裕子です。来年のいっせい地方選挙、前半の県議選、何としても勝ち抜いて大須賀県議の議席、しっかり守る決意です。どうかみなさん、よろしくお願いいたします。

私は10年前、大学生のとき、就職氷河期の中でした。就職活動を経験しました。当時は小泉政権が、正社員から不安定雇用へどんどん雇用を壊している。そんな中での就職活動でした。不安定雇用ばかりの求人票の中から正社員の募集を捜して何十通も履歴書を送りました。そして毎日のように面接に通って帰ってくると、何日か前に行った面接の結果、不採用の通知が山のように届く。そうした暮らしをしていました。

それは私だけではありませんでした。同級生や同世代の仲間も同じようなつらい気持ちで将来が見えない中、就職活動を行いました。実際に社会に出てみると正社員は正社員で大変でした。サービス残業で毎晩遅くしか家に帰れず、また家で寝てすぐに朝仕事に行く。毎日ヘトヘトで、これはこれで将来に希望が見えない生活でした。私だけでなく、これは同世代の皆さん、みんな同じ気持ちだったと思います。政治が若者の未来を奪っている。これを何とかしなくてはいけない。これが私の原点です。

26歳で市議会に皆さんのお力で送り出していただいて、これで議会活動7年になります。この間、若者がどうやったら社会に自立していけるか、将来に希望を持って暮らしていけるか、そういったことをずっと議会の中で訴えて、この春、初めて岐阜市に若者の総合支援センターを開設させることができました。これは民間に丸投げするのではなく岐阜市が直営で直接責任を持って、生まれた子どもさんから社会に出ていく青年までしっかり支援していこう。この動きの第一歩だと思います。今度はこれを県政でも取り組みたいと思います。

そしてこの7年間の議会での活動の中で、最初は質問をすると怒号のようなヤジばかりが飛んだ国民健康保険料の引き下げ、主要学校や中学校へのクーラーの設置、小学校卒業、義務教育終了まで子どもの医療費を無料にする。こうした皆さんの要望、議会で何度もとりあげ実現することができました。議会の中で少数であっても、議会の外に行けば市民の皆さんが後についてくれる。そうした世論で政治はすっかり変わる。政治が変われば私たちの暮らしも変わる。このことをこの7年間の議員活動の中で確信を持つことができました。この確信を持って今度は県議会でも頑張っていきたいと思います。皆さんと一緒に最後まで頑張る決意です。どうかよろしくお願いいたします。

日本共産党岐阜県委員会 2014.5.29.